

やり遂げる」と言った粘り強さや挑戦心を育てていきます。また、規範意識や思いやりの心を育むとともに、いじめを絶対に許さない学校体制づくりを推進してまいります。

健やかな体を育成する教育の充実

日常生活における運動時間の減少などから、子どもたちの体力・運動能力は低下している状況にあります。日高町の子どもたちにおいても、全国体力・運動能力、運動習慣調査では、全体的に全国平均を下回っております。体力や運動能力の向上には継続的な取組が不可欠であり、調査結果を踏まえた体力向上等に向けた取組の一層の充実が求められております。

そのためには、各学校が「体力向上プラン」を策定し、基本の運動の通年及び単元を通した実施、新体力テストの全学年全種目実施や複数回実施等、体育授業の工夫を図るとともに、1校1実践による運動の日常化を推進します。あわせて運動や遊びを誘う校内外の環境づくりや運動に親しむ場を設定することにより運動習慣を定着させ、体力・運動能力の向上を図ります。



学びをつなぐ教育の充実

幼児教育と小学校教育を連携・接続させ、子ども一人一人の育ちと学びをつなぐ教育の充実が求められています。

そのためには、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児期から児童期にかけての教育のつなが

りを各教育機関が理解する必要があります。そこで、町内の幼児教育施設と小学校との情報共有を図るなど、連携体制の整備に取り組んでまいります。

「よりよく子どもを育てていく」という目的を実現するためには、義務教育9年間を通して子どもの育ちを見守るという「共通の視点」が小学校にも中学校にも必要であります。

そのためには、9年後の目指す子どもの姿を想定し、小・中学校が情報交換や交流、共通実践を通じ、小学校から中学校への円滑な接続を目指す小中連携の一層の充実を図ってまいります。さらに、地域との連携においては、コミュニティ・スクールを有効に機能させ、早寝早起き朝ごはん運動を促進しながら、テレビやスマートフォン、ゲームなどの時間を減らし、生活・学習習慣づくりを支援してまいります。

他校種との学びの接続では、高等学校との連携も欠かせません。特に、中学校と義務教育ではなくなる高等学校との間には大きな段差があるため、この段差を低くすることが必要です。

そのためには、中学校と高等学校（富川高等学校・日高高等学校）の連携を図り、両校が共通の認識をもつとともに生徒が地域の高等学校をより身近なものとして感じることができるようにします。また、より専門的な教育を受ける高等学校への進学意欲を高め、個々の生徒の進路選択、さらには地域全体の学力の向上へとつなげてまいります。

子ども一人一人に寄り添った教育の推進

多様な子どもたちの客観的な実態に基づき、教育的ニーズを把握し、その可能性を最大限引き出す

取組が求められています。特別支援教育の充実はもとより、よりよい人間関係を形成し、自己指導力を育てていくことが重要であります。

そのためには、困難性を抱え、特別な支援が必要な子どもに寄り添える支援員を配置するとともに、多様な学びに対応する学習環境の整備を進めてまいります。また、近年増加傾向にある外国人児童生徒については、受入体制の整備や「特別の教育課程」による日本語指導を進めてまいります。不登校児童生徒については、スクールカウンセラーの活用やケース会議の開催など家庭や関係機関との連携を図りながら、相談・支援体制を整えるとともに、「学びを止めない」「心を近づける」といった観点からICTを活用した学習支援を進めてまいります。

実効性の高い働き方改革の推進

業務改善を進め、教師が自らの専門性を高め子どもたちとじっくり向き合うことのできる、より実効性の高い「働き方改革」が求められています。

そのためには、校長のリーダーシップの下、カリキュラム・マネジメントに基づく効率的で組織的な学校経営を支援します。教職員の労働時間については、ホームページで公表しておりますが、今後も学校閉庁日や定時退勤日の設定を推進してまいります。さらに、スクールサポートスタッフの導入など、学校を応援する体制づくりを進めるとともに、校務支援システムの導入を検討し教職員の負担軽減を図ってまいります。

魅力ある高等学校への支援の充実

少子化の進行など高校を取り巻く環境が変化する中、町立日高定

時制高等学校、道立富川高等学校の両校は、定数確保に向けた充実した教育活動の展開が重要な課題であります。

そのために、日高高等学校につきましては、少人数教育のよさを活かした教育活動を行う中で、タブレット端末の購入助成による1人1台端末の活用を進め、オンライン教材等を活用した個に応じた効果的な学習支援を図るとともに、地域の自然や人々とのふれあいの中で、様々な体験活動を行う産業学習事業と連携融合した特色ある高等教育機関として、生徒確保に向けた取組を進めてまいります。

富川高等学校におきましては、支援対策条例に基づく支援を継続し、タブレット端末の購入助成を進め高校における1人1台端末の活用やICT活用サポート体制の整備等、新たな学びの環境構築に向け支援してまいります。さらに、関係諸機関と連携し、定数確保に向けた取組をより一層推進してまいります。

より良い教育環境づくりに向けた条件整備の充実

今後も日高町の児童生徒数は、中長期的に減少が続くと推計しております。また、学校施設も校舎、設備等の老朽化が進んでいることを踏まえ、将来に向けて子どもたちがより良い教育環境で学習できる条件整備が求められています。

最初に、地球温暖化に起因する昨年のような猛暑への対策については、今後も繰り返すと予想される猛暑に対応するため、町内小中学校の各教室・保健室等に冷房設備を整備し、児童生徒の快適な空間を確保し授業に集中できるよう、学習環境の改善を推進します。

また、門別中学校と厚賀中学校については、日高町小中学校規模

適正配置基本方針に基づき、厚賀中学校を閉校し門別中学校への統合に向け準備を進めます。さらに、校舎の老朽化が目立つ門別小学校については、改築計画を推進します。

このほか、子どもたちがそれぞれに適した環境でスポーツ活動や文化活動に親しめる環境を構築することが求められており、学校部活動の地域における受け皿などの整備を推進します。

そのために、地域の多様なスポーツ・文化環境を活用しながら、休日における部活動の段階的な地域移行を推進し、地域のスポーツ・文化団体等と学校との連携・協働を支援してまいります。

社会教育

次に、社会教育について申し上げます。

生涯学習

生涯学習の推進につきましては、町民の価値観の多様化やライフスタイルの変化により、これまでの知識・技術・経験を継続しながら新たな創造により町民のニーズを活かした学習機会の提供、学習しやすい環境づくりに努めてまいります。

また、社会教育活動がより豊かで効果的な習得となる活動指導やアドバイスを行う社会教育主事の配置や社会教育担当職員等の育成・資質向上を図るとともに、住民が生涯にわたり主体的に取り組む学習・文化活動・スポーツ活動を支援し、地域人材の発掘や育成、地域へ還元される仕組みや環境づくりに努めてまいります。

幼児期につきましては、子どもの豊かな感性や情操を育むため、親子の体験活動や生涯スポーツの基盤となる運動機会を提供し、体力向上や運動習慣の定着を目指し

た取組を進めてまいります。

青少年期につきましては、子どもたちの「生きる力」を育むため、電子メディアの利用方法の啓発など「早寝早起き朝ごはん運動」の取組を推進し、規則正しい生活習慣の定着を図るほか、野外活動などの体験型事業やスポーツ活動を通して健やかな心身の発達を支援してまいります。また、子ども会やスポーツ少年団などの育成団体の活動支援や協働事業を行い、青少年の健全育成に努めてまいります。

成年期につきましては、文化活動やスポーツ活動を通じて町民間の交流を促進し、活気あるまちづくりが進められるよう社会教育委員やスポーツ推進員などとの連携を図るとともに、文化団体やスポーツ団体への支援を行い官民協働事業を推進してまいります。

高齢期につきましては、長寿社会を健康で心豊かに過ごし、学ぶことに生きがいを持つことのできる高齢者大学事業等の学習活動やスポーツを推進し、学習機会や学習環境の充実を図ってまいります。

文化活動

文化活動につきましては、文化協会主催事業への支援を行うとともに、関係団体との連携により文化活動の充実と交流の促進を図ってまいります。

また、芸術文化活動を促進するため鑑賞機会を提供し、町民の芸術文化に対する意識の高揚や関心の向上に努めてまいります。

